



城東図書館 2023年4月21日～5月17日実施

まちなひと 信貴 通子さんの紹介本リスト

放出小学校 校長先生

少年探偵 怪人二十面相	江戸川乱歩/作	ポプラ社など
<p>この本は、私が小学生の時に、大好きだった江戸川乱歩シリーズの1冊です。</p> <p>名探偵 明智小五郎が、助手の小林少年とともに、怪人二十面相を追う推理小説です。</p> <p>今は、ドラマ化されたものなどありますが、私はやっぱり本で読んだ時のドキドキ感が忘れられません。「電人M」「空飛ぶ二十面相」「夜光人間」「鉄人Q」「サーカスの怪人」「透明人間」「少年探偵団」「魔人ゴング」ほぼ全巻を月に1冊ずつ買ってもらって、何度も読んだ、お気に入りのシリーズです。登場人物が実は明智小五郎が変装していた男だったり、東京の街の真つ暗闇の恐怖や不可解な紳士を追って尾行する様子などがリアルにかかっていたりすると魅力でした。どの本も、ドキドキしながら時間を忘れて読んでいました。</p> <p>行ったことのない「東京」という街が、とてつもなく怖く感じ、初めて家族で東京に行ったときには、このシリーズを思い出して、夜の公園が怖く感じたものでした。</p> <p>映像でもよいのですが、ぜひとも活字で読んでもらいたいシリーズの1つです！</p>		
ポッコちゃん	星 新一/作	新潮社など
<p>この本は、私が中学生の時に、大好きだった本の1冊です。星新一さんの短編小説がおもしろくて、学校に行くときも電車に乗る時もカバンに入れて読んでいました。</p> <p>今まで読んだことのない、未知の世界観がとても魅力的でした。シリーズの中には、意味の分からない内容もあって、それがまた、とても不思議な感じだったことを覚えています。</p> <p>当時中学生だった私は、隣の席の男子に「この本面白いよ」と貸したらしく、教育実習で中学校に行ったときに、同じく教育実習に来ていたその男の子から、「あの時に借りた星 新一の『ポッコちゃん』が面白くて、はまってたくさん星 新一シリーズを読んだ」と聞きました。</p> <p>長男が小学生の時に、学校から「ポッコちゃん」を借りてきて読んでいたので、思わず私も読んでしまいました。何年たっても、その魅力は変わっておらず、独特の面白さを感じる本です。</p>		
老人と海	アーネスト・ヘミングウェイ/著	新潮社など
<p>この本は、私が高校生の時に、読んだ本の1冊です。高校生の頃は、夏目漱石の小説と外国の方の書いた小説にはまっていました。外国の小説に魅力を感じたのは、まだ、行ったことのない国へのあこがれもあったのでしょうが、その景色や人物のとらえ方が、日本の小説とちがっていたこともあったと思います。</p> <p>「老人と海」はとても短い小説なので、あっという間に読み終えることができますが、その景色や人物の描写表現がとても印象的な作品です。</p> <p>もう魚もうまく獲ることができない老人だけれど、それでもなお誇り高い姿勢でどこか強さを感じるところが魅力でした。生涯、自分に誇りをもって生きていくことの大切さを示してくれる存在、孤独でありながらもなぜ哀しみを感じさせない存在、生きている意味を考えさせられる存在。私にとって、人生を考えさせられる1冊です。</p>		
大地	パール・バック/著	新潮社など
<p>この本は、私が中学3年生の時に、読んだ本の1冊です。母が本棚に置いていたのをみつけて何気なく読み始めました。ハード版で、とても分厚くて、3部に分かれているものでした。受験間近に勉強そっちのけで、本当に没頭して読みました。受験勉強の追い込み時期に、この分厚い小説と出会ったことも運命でしょうか…。</p> <p>読み始めてものすごい衝撃を受けたことを覚えています。貧乏な主人公の話というだけでなく、今の世にも通ずる「人が差別されるということ」「人が生きていくということ」「土地があるということ」「よりよく生きるためにできること」「本来の人間の姿とは」など本当に考えさせられた本です。</p> <p>とても長い小説なので、読み終えたときには、はじめのほうを忘れかけていて、もう一度前のほうを読みなおしました。その文章は、表面だけのきれいごとの表現ではない、もっと人間味のある、人間の本質を見抜いたような表現で迫力あるものでした。</p>		

モモ	ミヒヤエル・エンデ/著	岩波書店
<p>この本は、私が高校生の時に、読んだ本の1冊です。</p> <p>きっかけは、私立高校の国語の入試問題文に出たからです。一部抜粋で問題文になっていたのですが、その文章に惹かれ、どうしても全文読みたくて、高校1年生になる春休みに読みました。</p> <p>読んだとたん、大のお気に入りになりました。表紙をめくると、「時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間にとりかえてくれた女の子のふしぎな物語」とあります。</p> <p>“みんな何か事があるごとに「モモのところに行ってごらん」といいます。小さなモモにできたこと。それはほかでもありません。あいての話を聞くことでした。”</p> <p>人は、モモのように、自分の話をじっと聞いてくれる人、じっと見つめて注意深く話を聞いてくれる人が必要なのです。</p> <p>“「時間」は生きることそのもの”</p> <p>いかに時間というもの大切なのか。自分を含め、その大切さをわかっていない人間がいかに多いのか。今でも時々読み返す大切な本です。</p>		

だんごころころ	松谷 みよ子/ぶん	童心社
<p>私は松谷みよ子さんの文章が大好きです。この本では、日本語の良さを感じる、リズム感のある表現が気に入っています。</p> <p>「むかし むかし ばあさまが だんごつくっていたら ひとつ おちてねえ・・・」</p> <p>このほっこりした文章表現にぴったり、とても良い感じの和歌山静子さんの挿絵。長男がとても気に入っていて、ベッドタイムに読む絵本のNo.1でした。あまりになんども読んだので、散歩に行くときも「むかし むかし・・・」と2人で言ったものです。</p>		

ペンギン大陸	岩合 光昭/著	小学館
<p>これは岩合光昭さんの写真集です。岩合さんといえば、猫の写真が多いのですが、この写真集の被写体は、ペンギンです。しかも、動物園などにいる、飼われているペンギンではなく、南極大陸にいるホンモノのペンギンたちです。</p> <p>子どもたちに、本当のペンギンの姿を見せたくて、買った写真集です。ここにでてるペンギンは、本当に「生きて」います。寒さの中で、氷ついたペンギンたち。大陸にびっしりとひしめき合うペンギンたち。青い空・氷の大地で寄り添っている2羽のペンギン。自然の偉大さを感じる写真集です。</p>		

この道を生きる、心臓外科ひとすじ	天野 篤/著	NHK出版
<p>この新書は、ぐうぜん本屋で見つけた本です。気になったのは、この筆者が、天皇陛下の心臓手術の執刀医だということです。いったい、どんな人が天皇陛下の手術を引き受けるのか。よほどのエリートなのだろうと思っていました。</p> <p>努力の道のり。医者として、心臓外科医としての決意ある心の強さ。患者と向き合う姿勢。手術するドクターなのに、読んでいるときは、まるで自分との戦いに臨む勇士の姿にも感じました。「仕事」と割り切ることのない、「人」としての生き方の在り方にしびれました。</p>		

雲のカタログ 空がわかる全種分類図鑑	村井 昭夫/文と写真	草思社
<p>これは、雲の図鑑です。とてもきれいで、本棚に置いていて、時々見るだけでも、純粋に、心なごみます。しかも、分類されていて、わかりやすく、ぼーっと見ても飽きないです。</p> <p>ふと、空を見上げた時に、めずらしい雲を見つけると、携帯で写真を撮って、家でこのカタログを見ることもあります。そのうえ、その雲が、このカタログにのっていると、なんだかとてもハッピーな気持ちになれます。</p>		

大阪市立城東図書館

大阪市城東区中央3-5-45 06-6933-0350

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/>